都留市セーフコミュニティ
外傷サーベイランス委員会

報告者　委員長　鈴木　健大

委員会の概要

外傷サーベイランス委員会の設置

指標1　分野横断的な協働の仕組み

指標2　外傷サーベイランス

指標3　包括性・エビデンスベース
指標4　ハイリスクの人（集団）・環境・状況に対する取組

指標5　取組の評価（アセスメント）

指標6　SCネットワークへの参加

→ 指標2・指標5を担う組織
（2018年8月設置）

外傷サーベイランス委員会の構成

図表1

No.	チーム	分　野	団 体 名	委員数
1	実務チーム	医療機関	都留医師会	1人
2		教育・研究機関	都留文科大学	1人
3		行政機関	大月警察署	1人
4			都留市消防本部	1人
5			都留市	3人
6		専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構	1人
7	アドバイザリーチーム	医療機関	都留市立病院	1人
8		教育・研究機関	健康科学大学	1人
9			埼玉県立大学	1人
10		行政機関	富士・東部保健所	1人

外傷サーベイランス委員会の役割Ⅰ

①データの収集・分析

事故・けがの全体像の把握、調査・記録方法の改善

②地域安全診断

重点分野、重点課題、ハイリスクグループの抽出

③持続可能な外傷調査システムの構築

構成データの選定、データ収集計画の策定

④評価方法の検討

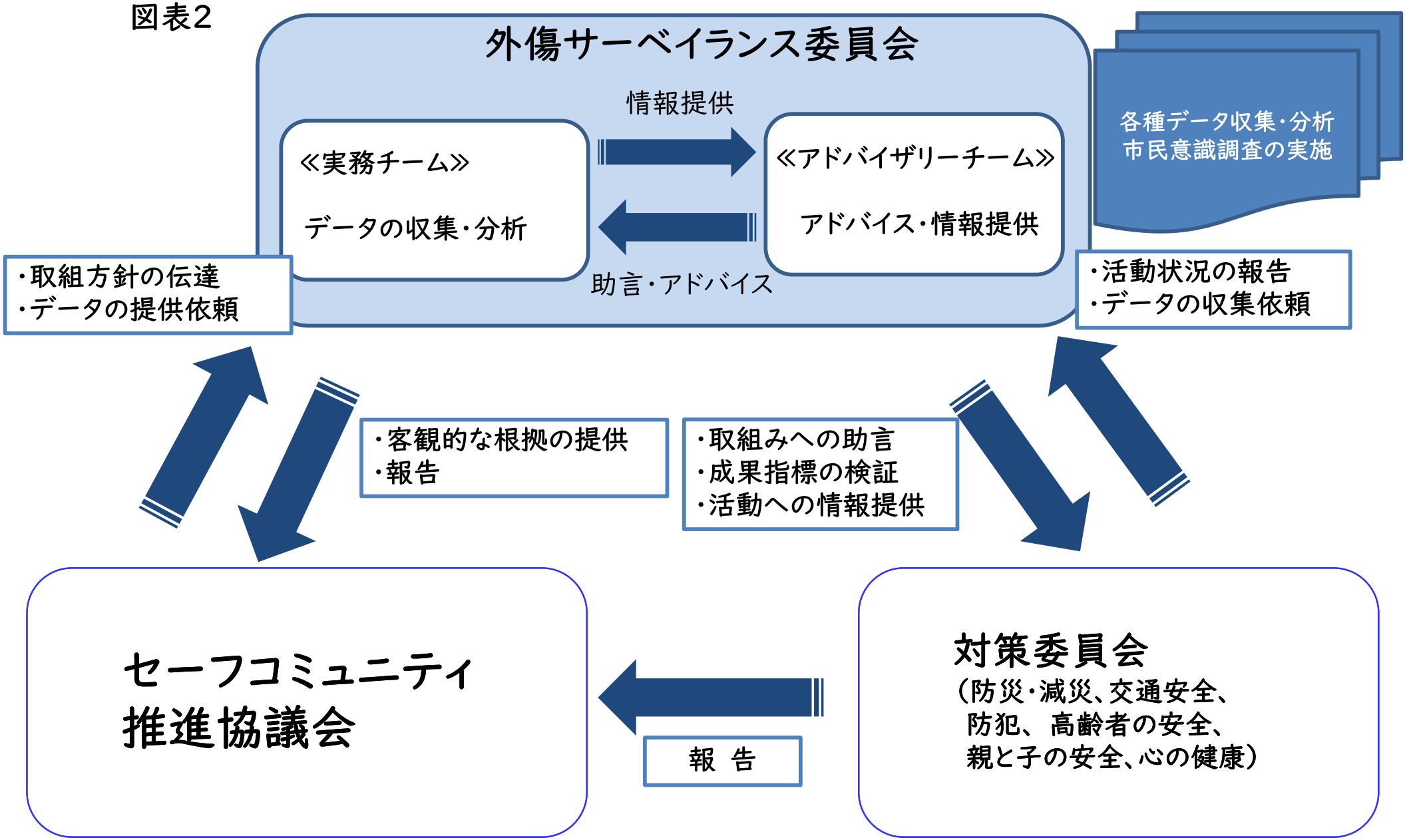
全体及び対策委員会別の評価方法の検討

⑤対策委員会への支援

データの提供、評価方法の提案、指導・助言

外傷サーベイランス委員会の役割2

図表2



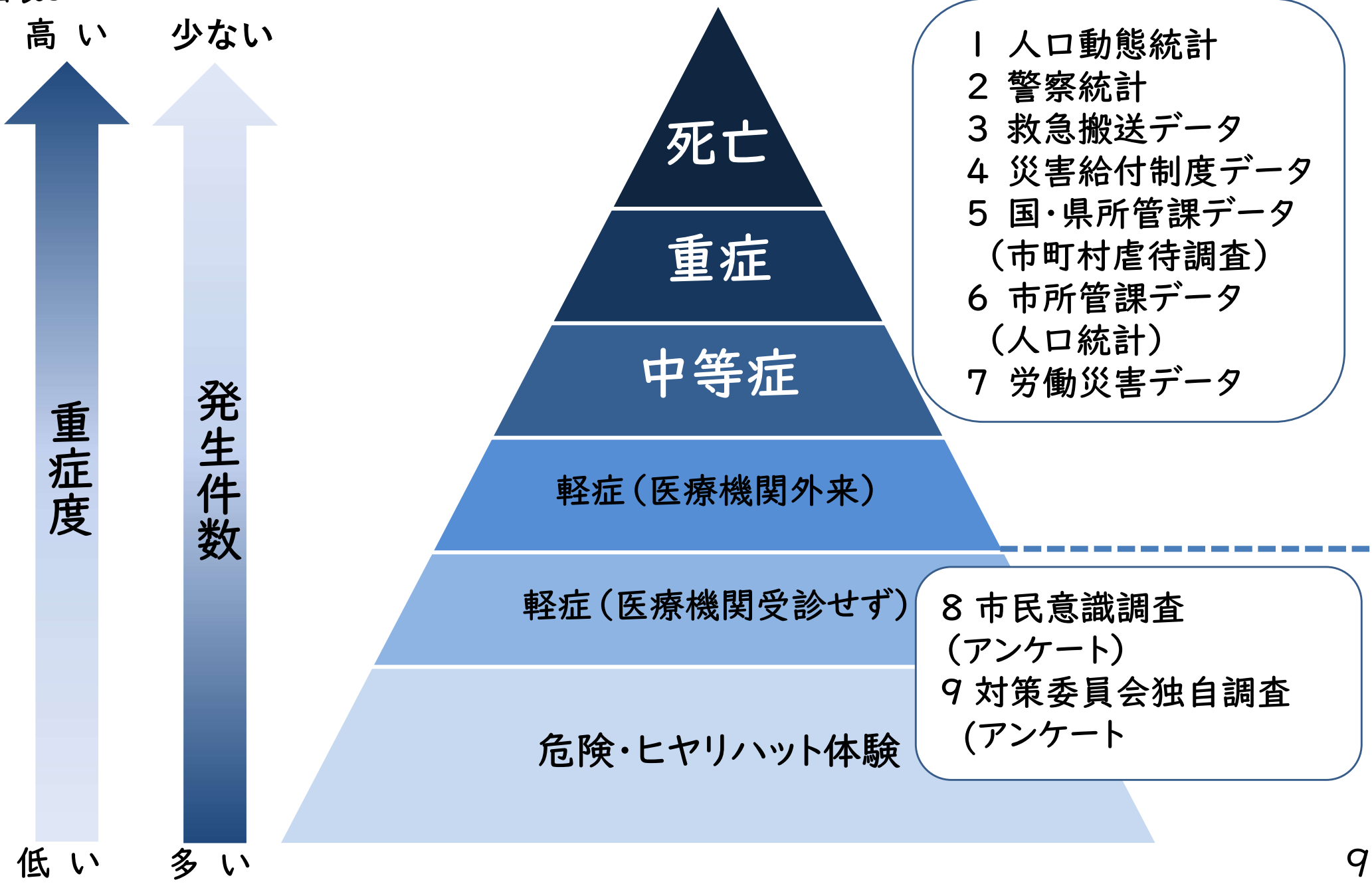
外傷サーベイランス委員会活動の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2018年10月	・地域安全診断 ・対策委員会への助言
第2回	2019年6月	・重点課題の抽出に向けた助言
第3回	2019年12月	・重点課題に対する評価、助言 ・取組みに向けた助言
第4回	2020年3月	・対策委員会の活動報告に対する助言
第5回	2024年1月	・SC取組前から2022年までのデータ変遷の分析 ・各対策委員会の取組の評価
第6回	2025年1月	・各対策委員会独自収集データの分析 ・各対策委員会の取組の評価
第7回	2026年1月	・各対策委員会独自収集データの分析 ・各対策委員会の取組の評価 ・市民意識調査（アンケート）の結果確認

都留市における外傷記録の状況（安全診断）

外傷の重症度とその記録種類の関係図

図表3



対策委員会別の主な収集データ

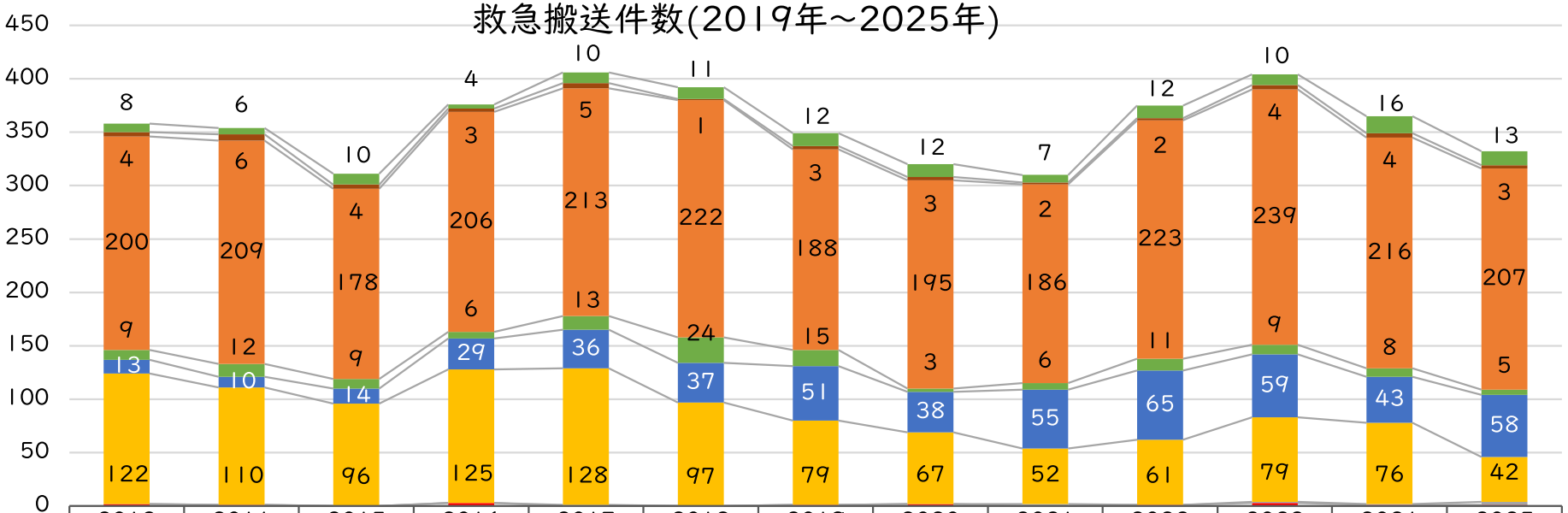
図表4

NO	名　称	内　容	防災・減災	交通安全	防犯	高齢者の安全	親と子の安全	心の健康
1	人口動態統計	外因による死亡原因に関する情報	●	●	●	●	●	●
2	警察統計	交通事故、犯罪に関する情報		●	●			
3	救急搬送データ	事故やけがによる救急搬送の情報	●	●	●	●	●	●
4	災害給付制度データ	小中学校における事故やけがに関する情報					●	
5	市町村虐待調査	市内における虐待の件数等に関する情報					●	
6	人口統計	人口、世帯数等に関する情報	●	●	●	●	●	●
7	労働災害データ	市内事業所で発生した労働災害による件数・業種・起因物などのデータ	※労働災害対策委員会の立ち上げ検討中					
8	市民意識調査（安全・安心なまちづくりアンケート）	外傷発生状況（ヒヤリハット）事故やけがに対する不安に関する情報	●	●	●	●	●	●
9	対策委員会独自調査(アンケート)	市民の意識など行政機関のデータには表れないもの						

行政機関から入手したデータ

労働災害に関するデータ①

図表5 救急搬送件数(2019年~2025年)



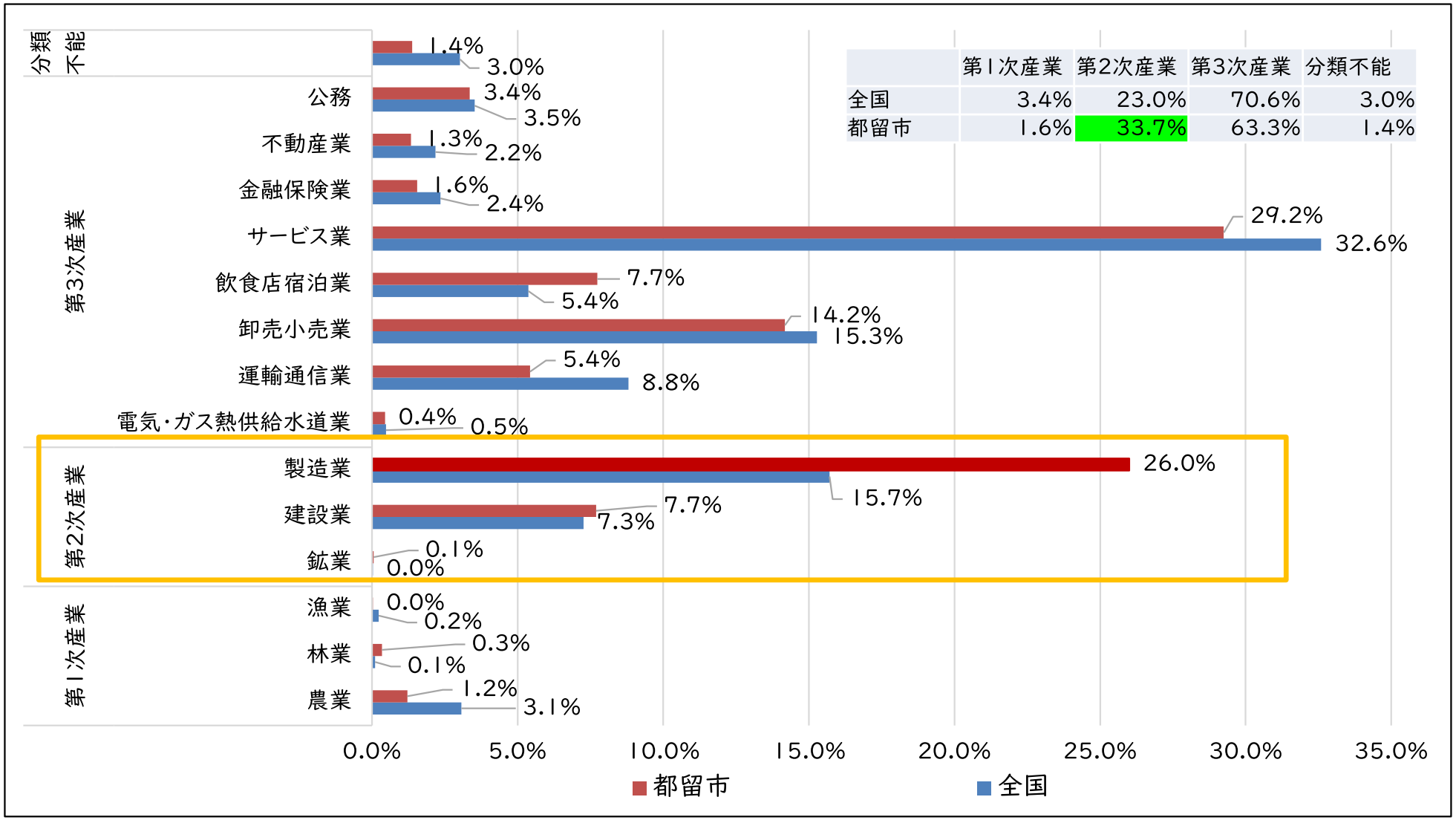
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
自損行為	8	6	10	4	10	11	12	12	7	12	10	16	13
加　害	4	6	4	3	5	1	3	3	2	2	4	4	3
一般負傷	200	209	178	206	213	222	188	195	186	223	239	216	207
運動競技	9	12	9	6	13	24	15	3	6	11	9	8	5
労働災害	13	10	14	29	36	37	51	38	55	65	59	43	58
交通事故	122	110	96	125	128	97	79	67	52	61	79	76	42
水　難	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	3
火　災	2	1	0	3	0	0	1	2	0	1	3	1	1

出典:都留市

労働災害の救急搬送件数は、急病を除く救急搬送の中での割合が高く、2025年では、交通事故よりも多くなっている。

労働災害に関するデータ②

図表6 就業者数の比較（2020年）



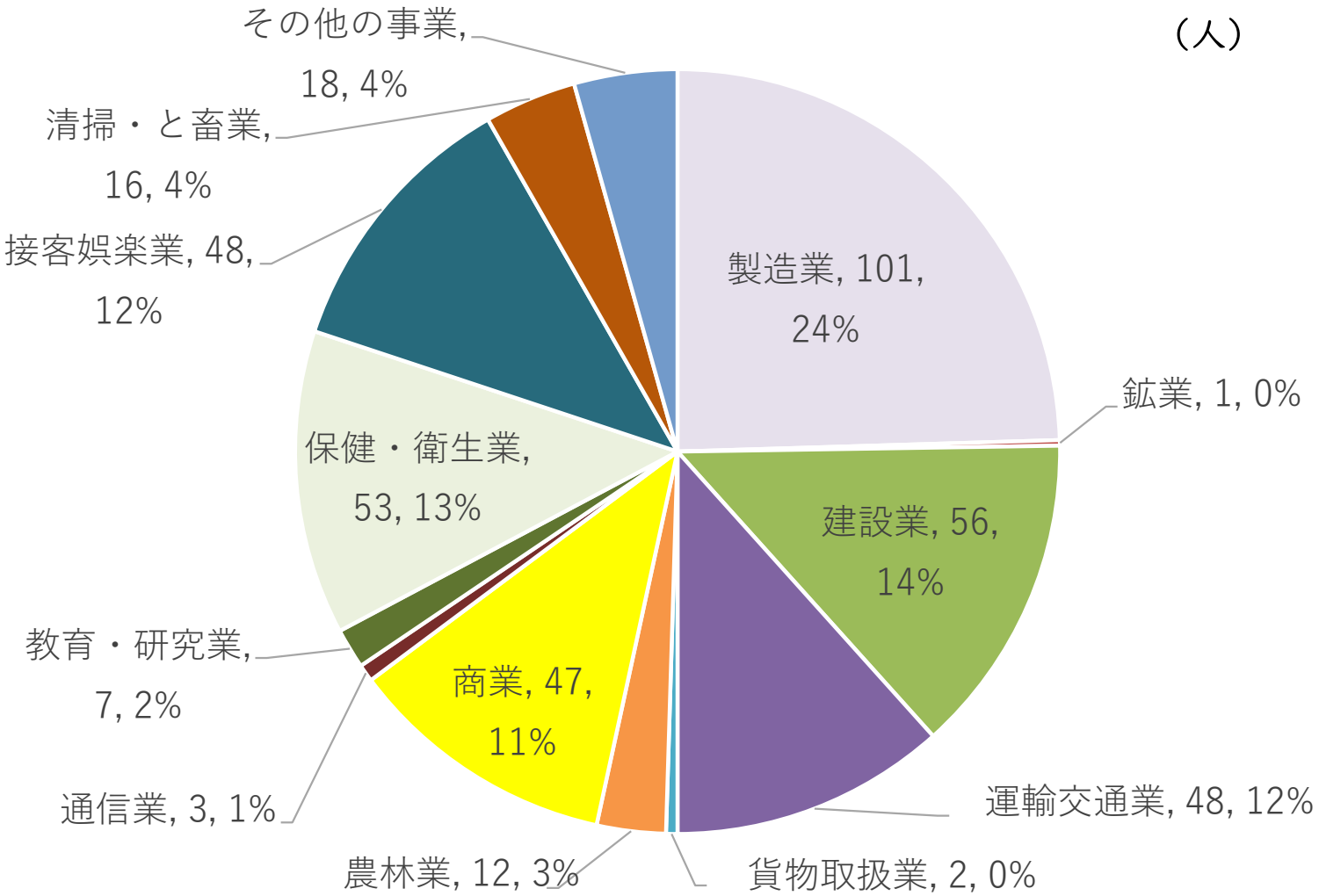
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
全国	3.4%	23.0%	70.6%	3.0%
都留市	1.6%	33.7%	63.3%	1.4%

・都留市は全国と比較して、第2次産業への就業率が高く（都留市33%：全国23%）、そのうち、「製造業」従業者が26%と突出している

出典：国勢調査(2020年)

労働災害に関するデータ③

図表7 業種別災害発生人数（2014~2024）



・災害発生が多い業種は、製造業（101人）であり、全体の約24%を占める。
・今後、詳細なデータを収集し、ハイリスク対象を定めていくことから始めていきたい。

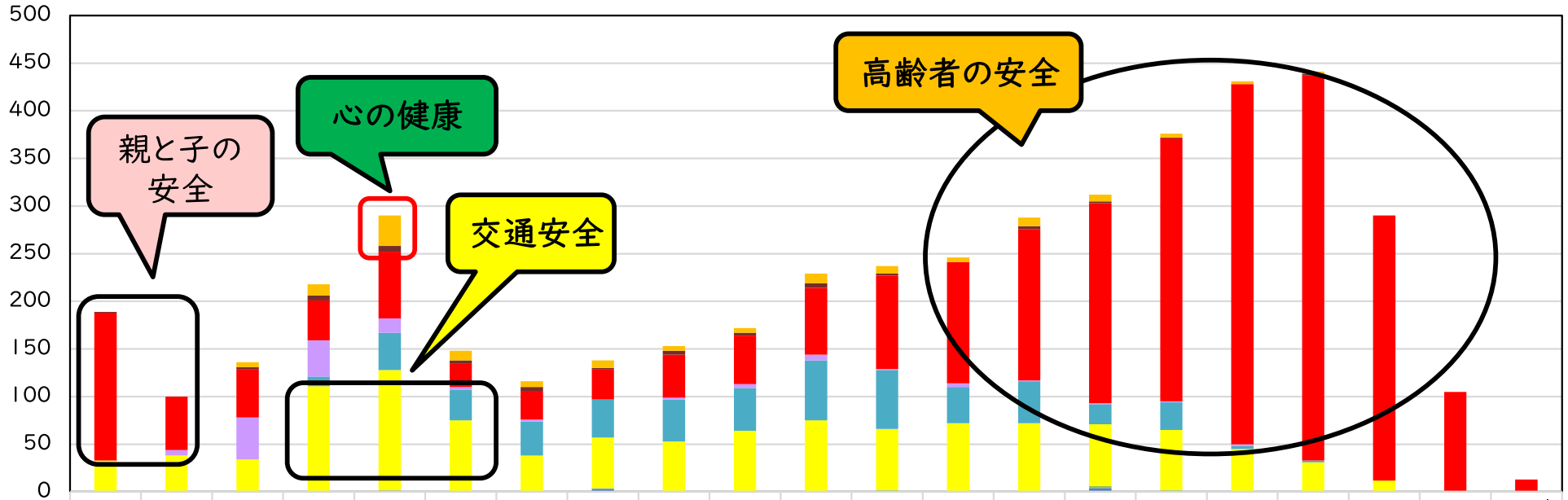
出典：都留市労働基準監督署

救急搬送データ

外的要因による救急搬送人数の内訳は、10~29歳は交通事故、0~9歳及び60歳以降は一般負傷（転倒・転落によるケガ、異物誤嚥等の事故）が多い

図表8 年齢層別・事故種別救急搬送人数の内訳（2013年~2025年）

（人）

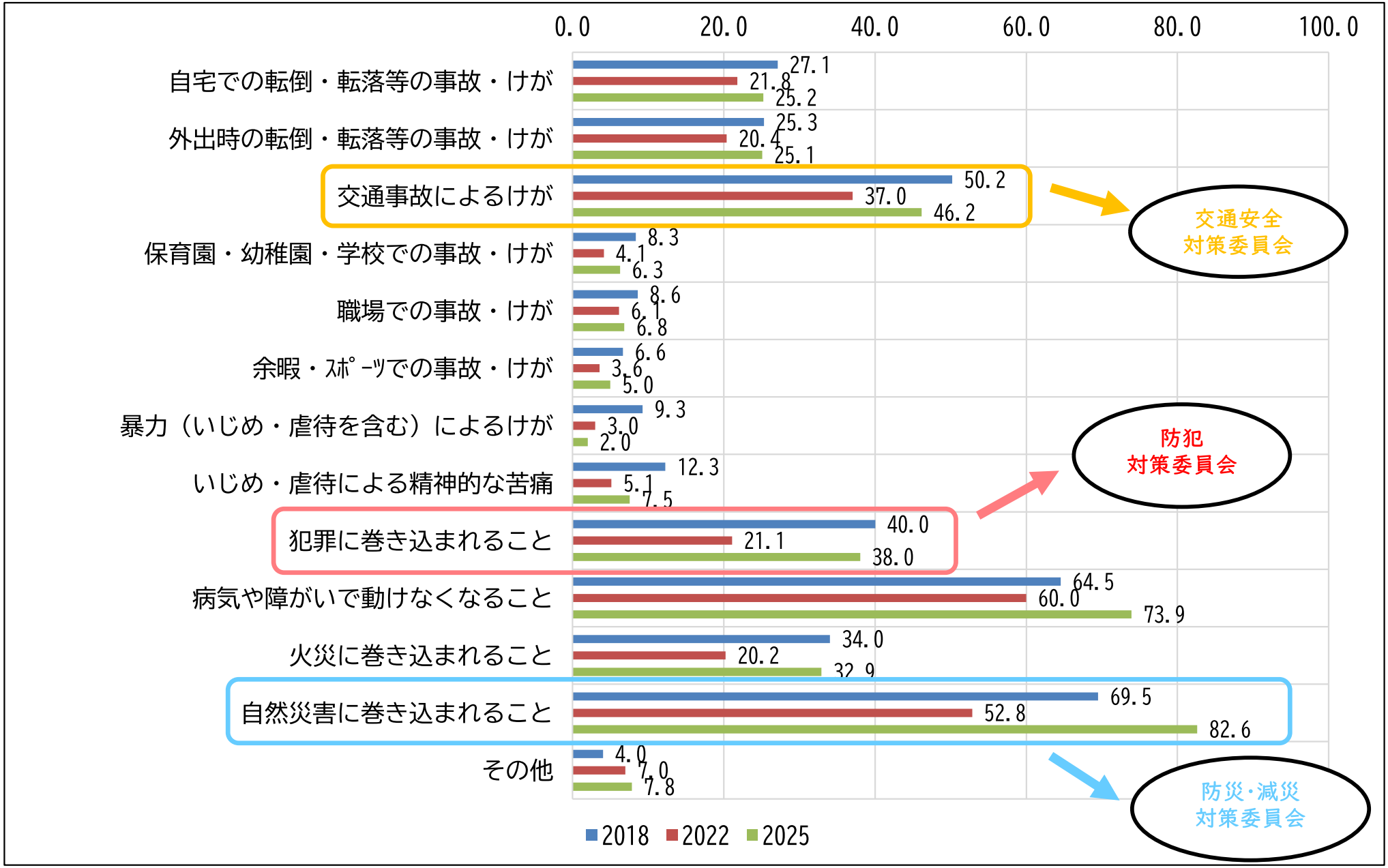


	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~
自損行為	0	0	5	12	32	10	6	8	5	5	10	8	5	9	7	4	3	2	0	0	0
加害	1	0	2	5	6	3	4	1	4	3	5	2	0	3	2	1	0	2	0	0	0
一般負傷	155	56	51	42	70	25	30	32	45	51	70	98	127	159	210	276	378	404	278	104	13
運動競技	0	6	44	38	15	3	2	0	2	4	6	1	4	1	1	1	2	0	0	0	0
労働災害	0	0	0	10	39	32	36	40	44	45	63	62	38	44	21	29	3	2	0	0	0
交通事故	33	37	34	110	126	75	37	53	52	64	74	64	71	71	65	63	45	31	11	1	0
水難	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0
自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
火災	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	1	1	0	1	4	1	0	0	1	0	0

出典：救急搬送データ

市民の不安感（体感治安）

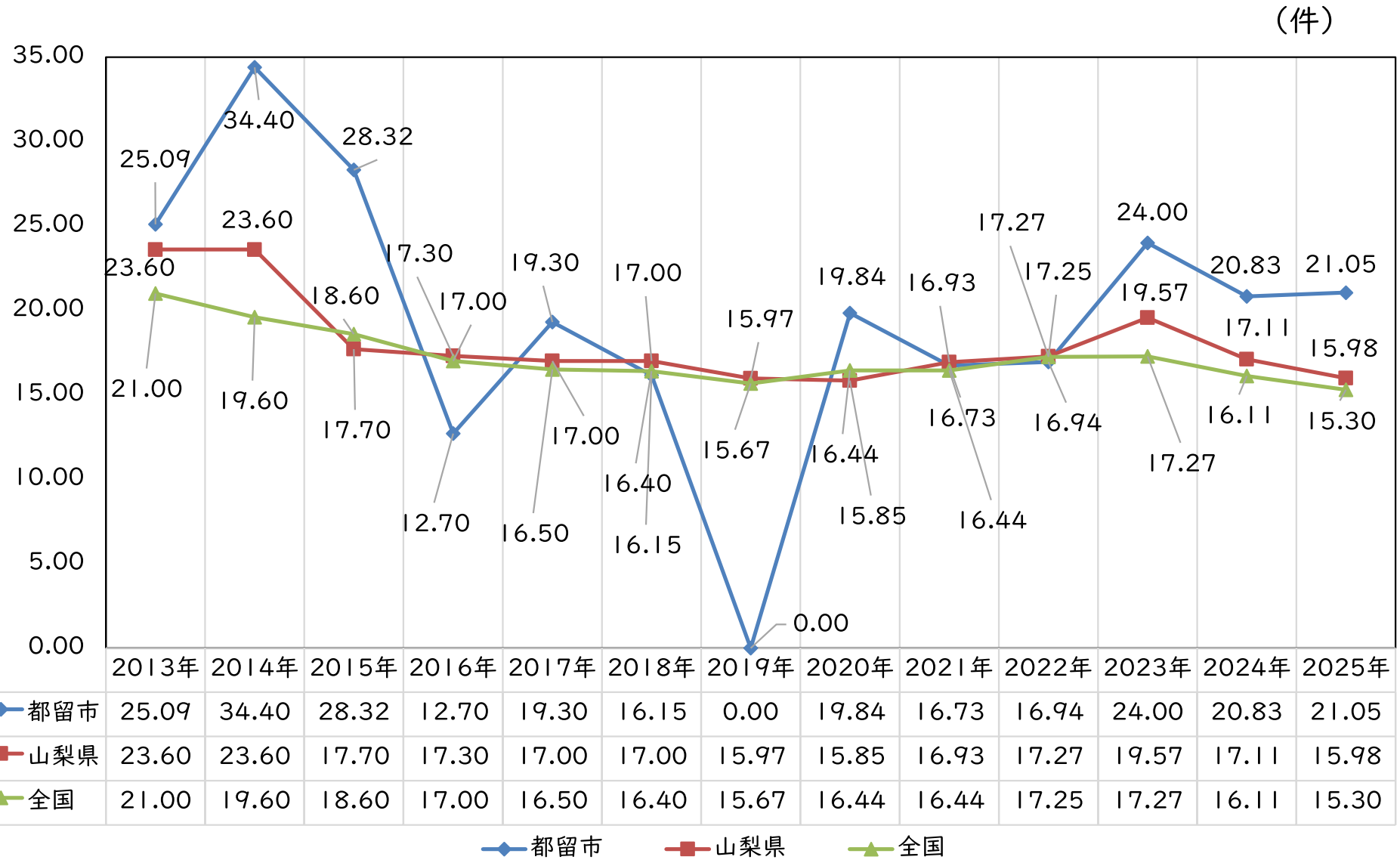
図表9 都留市で生活する中で不安に感じている事柄（全体）　2018:n=767　2022:n=702　2025:n=930



出典：安全・安心なまちづくりアンケート(2018、2022、2025)

自殺発生率の推移

図表10 人口10万人あたりの自殺発生率（2013年～2025年）



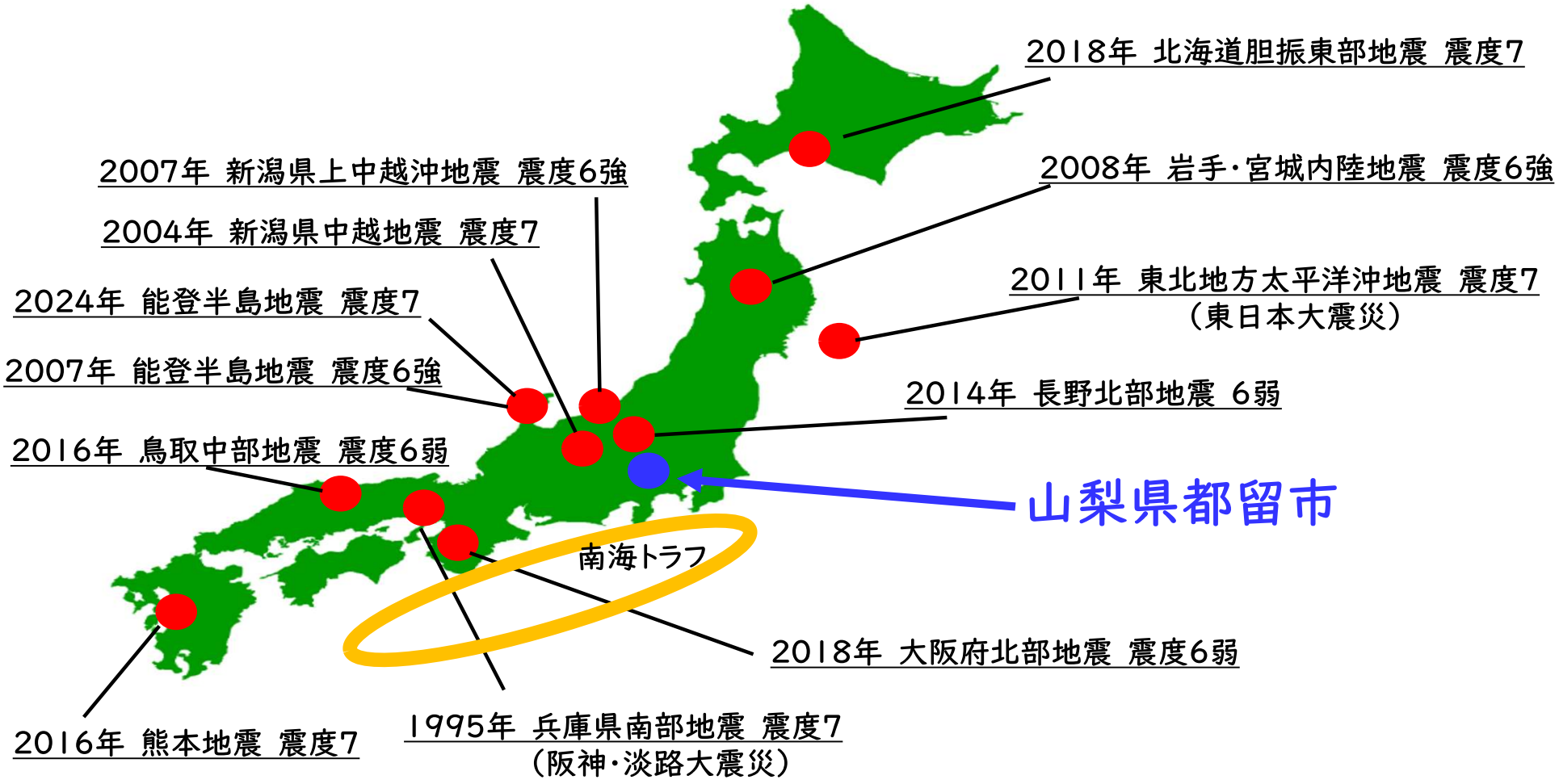
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
都留市	25.09	34.40	28.32	12.70	19.30	16.15	0.00	19.84	16.73	16.94	24.00	20.83	21.05
山梨県	23.60	23.60	17.70	17.30	17.00	17.00	15.97	15.85	16.93	17.27	19.57	17.11	15.98
全国	21.00	19.60	18.60	17.00	16.50	16.40	15.67	16.44	16.44	17.25	17.27	16.11	15.30

出典：自殺の基礎資料

国内大規模地震発生分布図

近年、震度6弱以上の大地震が全国で発生しており、南海トラフ地震・首都直下地震は今後30年以内に、70～80%の確率で発生すると予想されている。

図表11　日本における大規模地震発生状況地図



【出典】気象庁

市民意識調査
（安全・安心なまちづくりアンケート）

市民意識調査（安全・安心なまちづくりアンケート）

アンケートの特徴

①日々の生活における不安感など意識に関する状況の把握
②医療機関の受診には至らなかったけが・ヒアリハット事例の収集
③自由記述による安全・安心に対する定性データの収集

サーベイランス委員会が分析を実施

アンケートの概要

【調査対象】
住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）

【調査項目】
（1）基本属性
（2）住みやすさ
（3）セーフコミュニティの認識度
（4）地域活動への取組状況
（5）都留市で不安に感じること
（6）防災・減災について
（7）交通安全対策について
（8）防犯対策について
（9）心と体の健康づくりについて
（10）家庭内の安全対策について

【実施年度】
2018年、2022年、2025年

2018年調査

自然災害に対する不安は全年齢層において高く、交通事故・犯罪は若い年齢層で高く、高齢になるにつれて病気・転倒等身体に対する不安が高くなっていく。

(%)　図表12　都留市で生活する中で不安に感じている事柄（年齢別）

	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳以上
自宅での転倒・転落等の事故・けが	3.0	2.7	1.3	3.4	3.4	5.8	8.9	11.6	③12.6	① 20.7
外出時の転倒・転落等の事故・けが	1.5	3.3	2.6	3.4	4.7	5.8	8.1	11.3	11.2	14.3
交通事故によるけが	② 18.2	② 15.4	③ 13.5	② 14.7	12.7	③ 13.8	③ 12.2	③15.1	11.2	12.0
保育園・幼稚園・学校での事故・けが	1.5	0.5	7.4	5.6	1.1	1.2	0.5	0.6	0.9	0.8
職場での事故・けが	1.5	4.4	3.1	3.1	3.4	4.0	1.9	0.6	0.9	0.0
余暇・スポーツでの事故・けが	3.0	1.6	1.7	2.5	1.7	1.8	1.4	1.9	4.2	0.0
暴力（いじめ・虐待を含む）によるけが	4.5	6.0	7.0	3.4	2.8	2.2	1.9	0.0	0.5	0.8
いじめ・虐待による精神的な苦痛	6.1	8.2	9.6	5.3	3.2	2.5	1.4	0.6	2.3	0.0
犯罪に巻き込まれること	② 18.2	11.5	② 14.4	11.9	③ 14.8	12.6	8.9	7.5	7.0	7.9
病気や障がいで動けなくなること	7.6	③ 12.1	11.4	③ 14.1	② 19.4	② 18.5	① 21.9	①23.3	①21.0	② 17.3
火災に巻き込まれること	12.1	7.1	8.7	9.7	9.5	10.2	8.6	8.8	11.2	10.5
自然災害に巻き込まれること	① 21.2	① 20.9	① 17.9	① 21.3	① 21.5	① 20.9	② 19.2	②18.6	②15.4	③ 15.0
その他	1.5	0.5	1.3	1.3	1.7	0.6	1.9	0.0	1.4	0.8

高齢者の安全
交通安全
防　犯
高齢者の安全
防災・減災

出典：安全・安心なまちづくりアンケート(2018)

2022年調査

（%）図表13 都留市で生活する中で不安に感じている事柄（年齢別）

	①20歳未満	②20歳～29歳	③30歳～39歳	④40歳～49歳	⑤50歳～59歳	⑥60歳～64歳	⑦65歳～69歳	⑧70歳～74歳	⑨75歳～79歳	⑩80歳以上
1. 自宅での転倒・転落等の事故やけが	0.0	0.0	1.6	4.0	1.6	6.9	8.2	12.4	12.6	③ 15.9
2. 外出時の転倒・転落等の事故やけが	0.0	4.2	3.2	5.1	2.0	5.2	6.3	12.8	11.6	12.7
3. 交通事故にあうこと	③ 12.5	② 20.8	① 19.8	② 12.6	③ 12.8	③ 13.2	③ 12.1	③ 13.6	③ 15.3	13.3
4. 保育園・幼稚園・学校での事故やけが	0.0	1.0	6.3	6.3	0.8	0.6	0.5	0.4	1.1	0.6
5. 職場での事故・けが	0.0	3.1	6.3	2.9	4.4	4.0	1.9	0.8	1.1	0.0
6. 余暇・スポーツでの事故やけが	0.0	2.1	0.8	1.7	1.2	1.1	1.9	1.6	1.6	0.6
7. 暴力（いじめ・虐待を含む）によるけが	0.0	3.1	3.2	1.1	2.4	1.1	1.0	0.0	0.5	0.3
8. いじめ・虐待による精神的な苦痛	③ 12.5	4.2	6.3	4.6	2.0	2.3	1.9	0.4	0.0	0.0
9. 犯罪に巻き込まれること	③ 12.5	11.5	11.9	10.9	10.4	9.2	5.8	7.2	6.3	4.8
10. 病気や障がいで動けなくなること	② 25.0	③ 12.5	③ 12.7	③ 15.4	② 24.4	① 26.4	① 29.0	① 26.0	① 23.2	① 24.4
11. 火災に巻き込まれること	0.0	8.3	7.9	7.4	6.4	9.8	6.3	5.6	8.9	9.3
12. 自然災害に巻き込まれること	① 37.5	① 27.1	② 18.3	① 22.3	① 28.0	② 18.4	② 21.3	② 17.2	② 16.8	② 16.1
13. その他	0.0	2.1	1.6	5.7	3.6	1.7	3.9	2.0	1.1	2.0

高齢者の安全

交通安全

防犯

高齢者の安全

防災・減災

出典：安全・安心なまちづくりアンケート(2022)

2025年調査

図表13-2 都留市で生活する中で不安に感じている事柄（年齢別）

（%）

	①20歳未満	②20歳～29歳	③30歳～39歳	④40歳～49歳	⑤50歳～59歳	⑥60歳～64歳	⑦65歳～69歳	⑧70歳～74歳	⑨75歳～79歳	⑩80歳以上
1. 自宅での転倒・転落等の事故やけが	0.0	1.5	1.0	0.4	4.1	5.6	7.1	8.4	10.2	③ 16.2
2. 外出時の転倒・転落等の事故やけが	4.3	2.9	2.1	4.5	3.4	6.0	5.6	9.6	8.6	14.3
3. 交通事故にあうこと	②17.4	②19.1	②20.8	③13.9	③12.1	③12.4	③12.0	③11.3	③10.9	10.1
4. 保育園・幼稚園・学校での事故やけが	2.2	2.9	7.8	6.1	1.3	0.0	0.8	0.3	0.4	0.0
5. 職場での事故・けが	0.0	4.4	2.6	3.3	2.3	4.3	1.5	0.3	1.6	0.2
6. 余暇・スポーツでの事故やけが	6.5	1.5	3.1	1.2	0.8	0.9	0.4	1.2	3.1	0.7
7. 暴力（いじめ・虐待を含む）によるけが	4.3	1.5	1.6	1.6	0.0	0.0	0.4	0.3	0.4	0.0
8. いじめ・虐待による精神的な苦痛	0.0	2.2	5.2	6.1	2.6	0.9	1.1	1.8	0.8	0.5
9. 犯罪に巻き込まれること	③15.2	③14.0	8.9	13.5	10.6	11.6	11.7	9.9	7.4	9.3
10. 病気や障がいで動けなくなること	6.5	8.8	③12.5	②14.3	②22.9	②23.2	①26.3	①25.4	①24.2	①19.7
11. 火災に巻き込まれること	10.9	5.1	4.7	7.0	10.8	9.4	9.8	10.1	9.8	10.1
12. 自然災害に巻き込まれること	①32.6	①30.1	①26.0	①24.2	①25.3	①24.0	②21.8	②21.5	②21.5	②17.7
13. その他	0.0	5.9	3.6	3.7	3.9	1.7	1.5	0.0	1.2	1.2

高齢者の安全

交通安全

防犯

高齢者の安全

防災・減災

出典：安全・安心なまちづくりアンケート(2025)

重点分野・対策委員会設置の背景

重点分野の決定

重点分野決定までの流れ

都留市における外傷データの収集

- 関係行政機関からのデータ
- 市民意識調査
  （安全・安心なまちづくりアンケート）

↓

地域安全診断の実施

収集したデータを基に安全状況の確認、現在の活動の把握、今後の優先的課題を見つける

↓

6つの重点分野の決定（推進協議会で承認）【2018年】

6つの分野別対策委員会を決定

収集データからみる都留市の課題

○統計データ
●アンケート

○南海トラフ巨大地震について、今後50年以内では90%以上の確率で発生すると予想されており、都留市においては、震度6弱が想定されている。
●市民が不安に思う事柄で最も多いのは「自然災害」である。
●防災対策を講じている人は半数に満たない。

→ 防災・減災対策委員会

○外傷による救急搬送では「一般負傷」の次に「交通事故」が多い。
○交通事故による死者と救急搬送者のいずれも、「高齢者」と10代～20代の「若者世代」が多い。
●市民が不安に思う事柄で「交通事故」は上位（3番目）である。

→ 交通安全対策委員会

○人口10万人あたりの犯罪認知件数は、全国や山梨県と比べて少ないが、窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。
●防犯に関する地域活動に現在取り組んでいる人は約1割程度
●市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位（4番目）である。

→ 防犯対策委員会

○一般負傷による救急搬送が80歳以上で最も多く、60歳以上が全体の6割を占め、「転倒・転落」が多い。
●過去1年間の事故・けがの状況において、高齢者の約6割が「転倒・転落」によるもので、発生場所の6割が「自宅」である。

→ 高齢者の安全対策委員会

○一般負傷による救急搬送が0～9歳の年齢層で高齢層に次いで多い。
●過去1年間の事故・けがの状況において、「就学前の子ども」から「中学生」までの約5割が「転倒・転落」によるものである。
●子どもの安全に関する地域活動に取り組んでいる人は約1割程度

→ 親と子の安全対策委員会

○人口10万人あたりの自殺発生率が全国・山梨県に比べると高い。
○自損行為による救急搬送は若い世代で多く、中等症以上の割合が高い。
●自殺に関する地域活動に取り組んでいる人は約1割程度

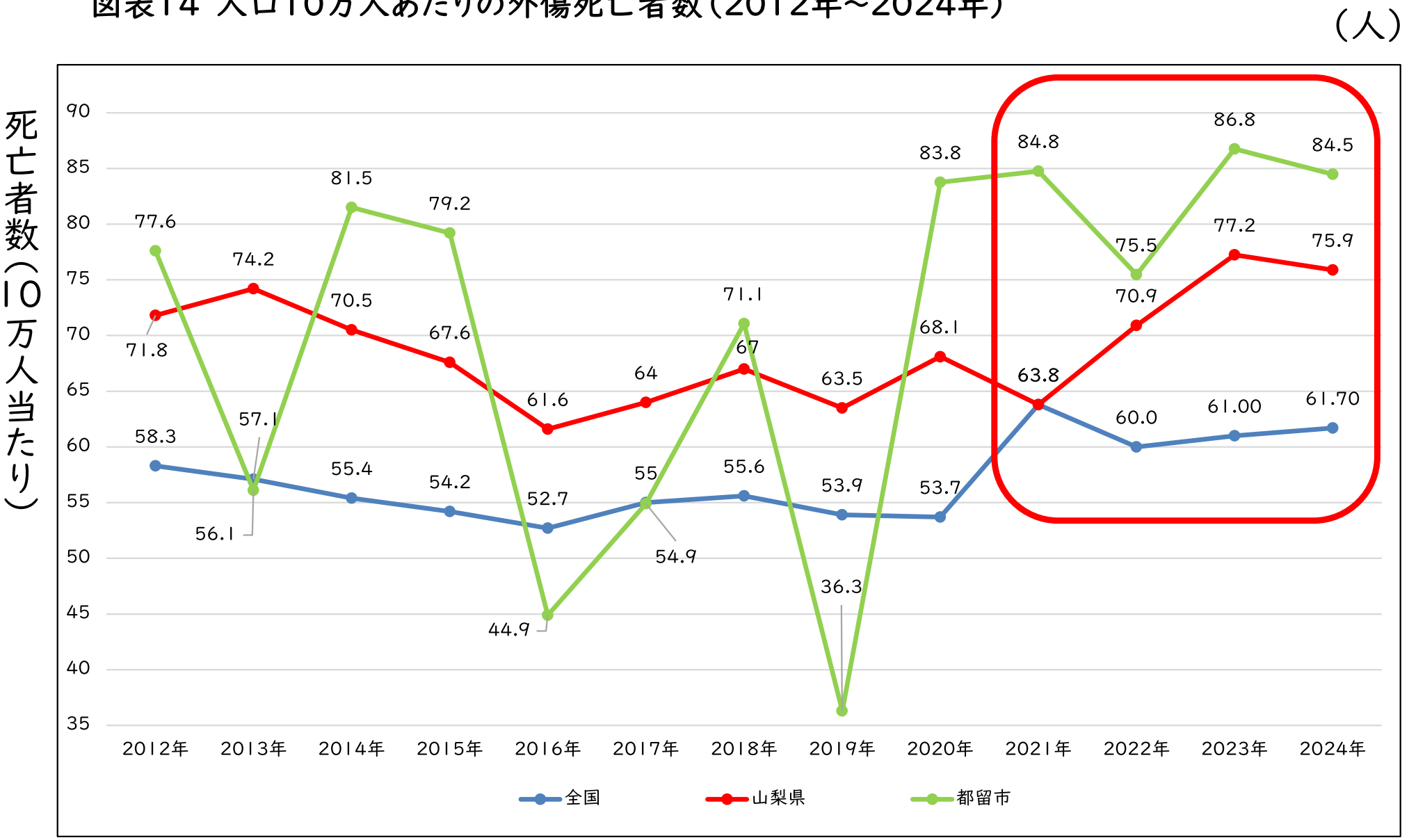
→ 心の健康対策委員会

認証後（2021年以降）の
データの変化について

外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡率の推移

⇒ 全国・山梨県に比べて高い。

図表14 人口10万人あたりの外傷死亡者数(2012年~2024年)



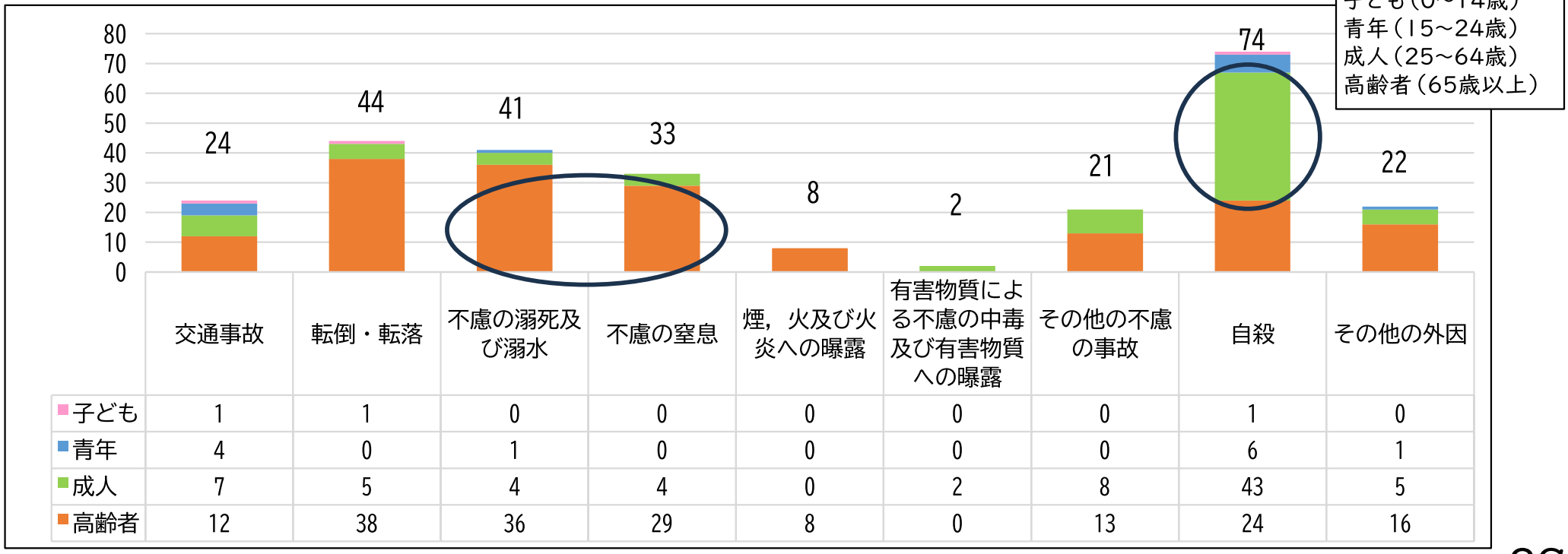
出典:人口動態統計

外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数の推移

図表15 年別 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数の推移（2012～2024）

＊外的要因	図表8													
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
交通事故	0	1	3	1	2	5	3	1	1	1	2	3	1	24
転倒・転落	4	2	2	4	4	2	5	1	4	2	4	4	6	44
不慮の溺死及び溺水	1	2	6	3	1	3	4	1	3	3	4	4	6	41
不慮の窒息	5	2	1	4	1	1	0	2	6	3	4	3	1	33
煙，火及び火炎への曝露	0	4	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	8
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
その他の不慮の事故	3	1	4	2	1	0	2	1	2	1	2	1	1	21
自殺	9	6	9	9	5	4	3	3	6	4	4	6	6	74
他殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の外因	3	0	0	2	0	2	4	2	0	1	1	4	3	22
計	25	18	26	25	14	17	22	11	25	15	22	25	24	269

図表16 年齢別 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数（2012～2024）



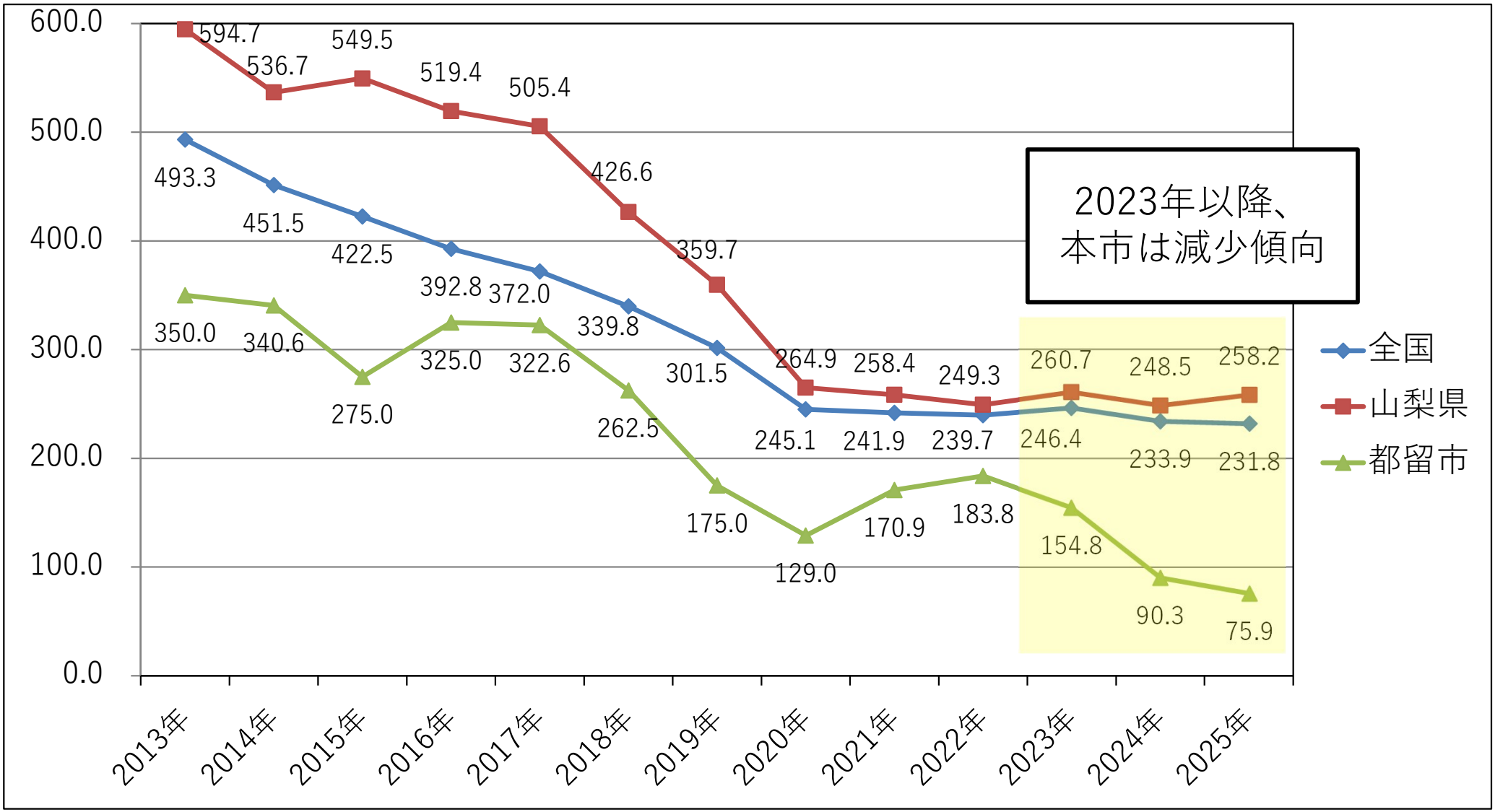
	交通事故	転倒・転落	不慮の溺死及び溺水	不慮の窒息	煙，火及び火炎への曝露	有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	その他の不慮の事故	自殺	その他の外因
子ども	1	1	0	0	0	0	0	1	0
青年	4	0	1	0	0	0	0	6	1
成人	7	5	4	4	0	2	8	43	5
高齢者	12	38	36	29	8	0	13	24	16

出典：人口動態統計

交通事故発生件数

⇒ 交通事故件数は全国・山梨県と同様に減少傾向にある。

図表17　人口10万人あたりの交通事故件数

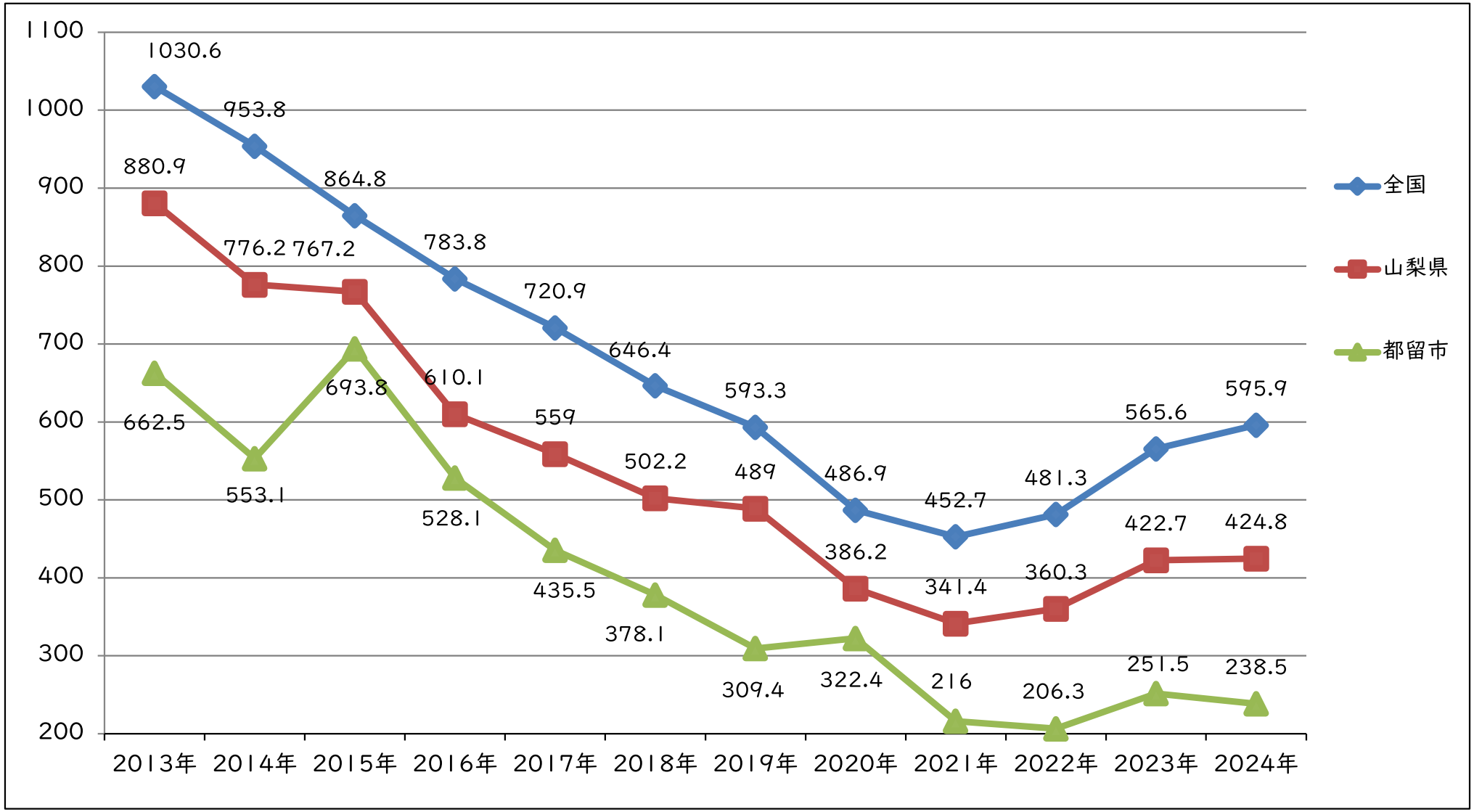


出典：警察統計

犯罪発生件数

⇒ 刑法犯認知件数も全国・山梨県と同様に減少傾向にある。

図表18　人口10万人あたりの刑法犯認知件数



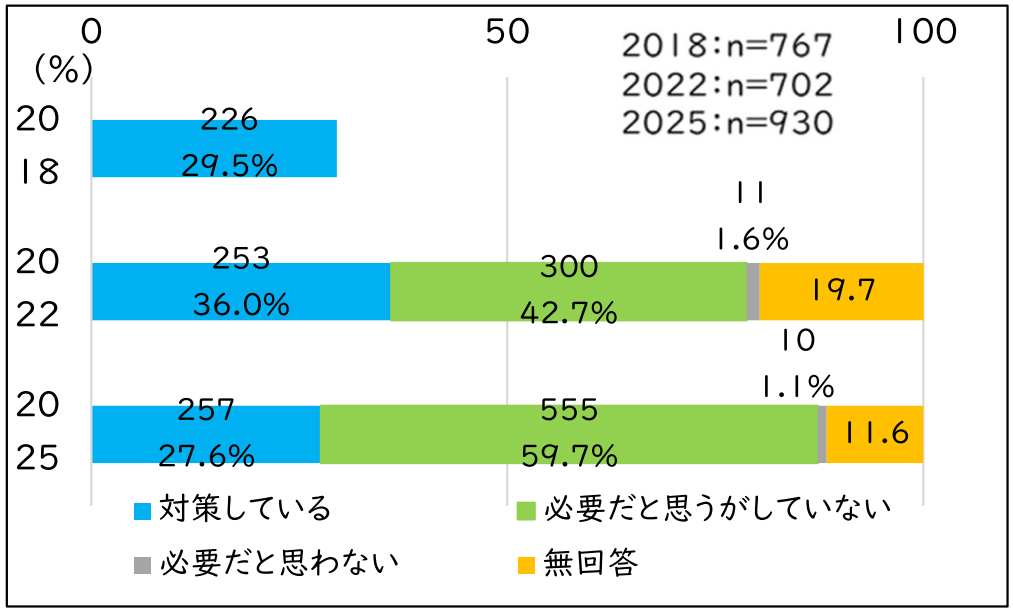
出典：警察統計

対策委員会への助言・提案
（2025年 安全診断）

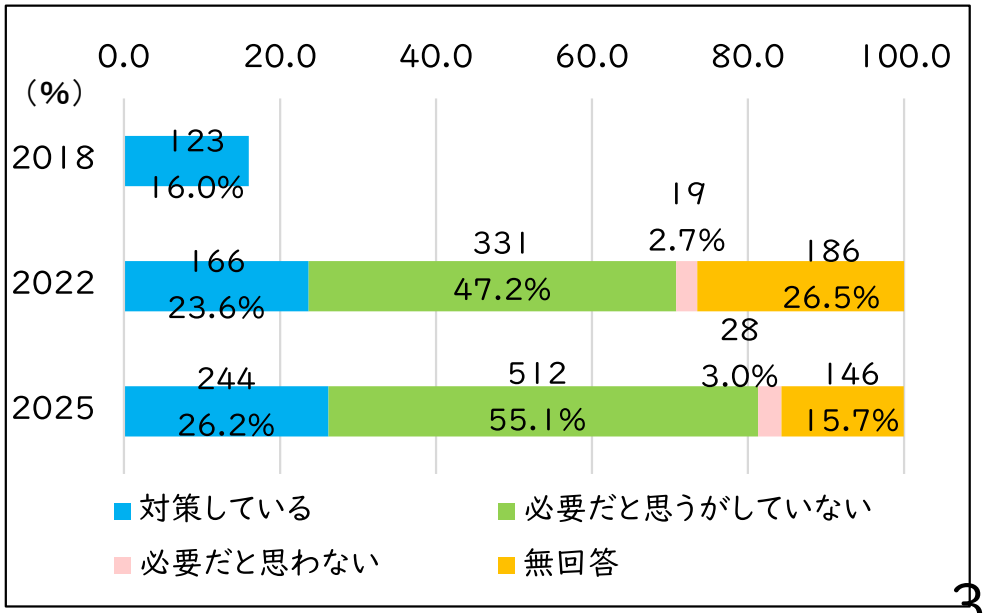
防災・減災対策委員会

外傷サーベイランス委員会による評価
【データ収集】図表19 家具の転倒防止や家電等の落下防止対策のアンケートについて、今の家は家具のない家も多く、家具の有無や築年数などを聞いてみると、より細かい分析につながるのではないか。
【活動について】図表20 防災メールの登録について、実際登録しているのは若い世代であって、災害弱者となりやすい高齢者は登録していない可能性がある。そういった方には、身内や親戚など、市外の方であっても登録してもらうなど、一歩踏み込んだ活動をしていただきたい。

図表19 家具の転倒防止や家電等の落下防止対策
（2018・2022・2025地域環境課実施 市民意識調査）



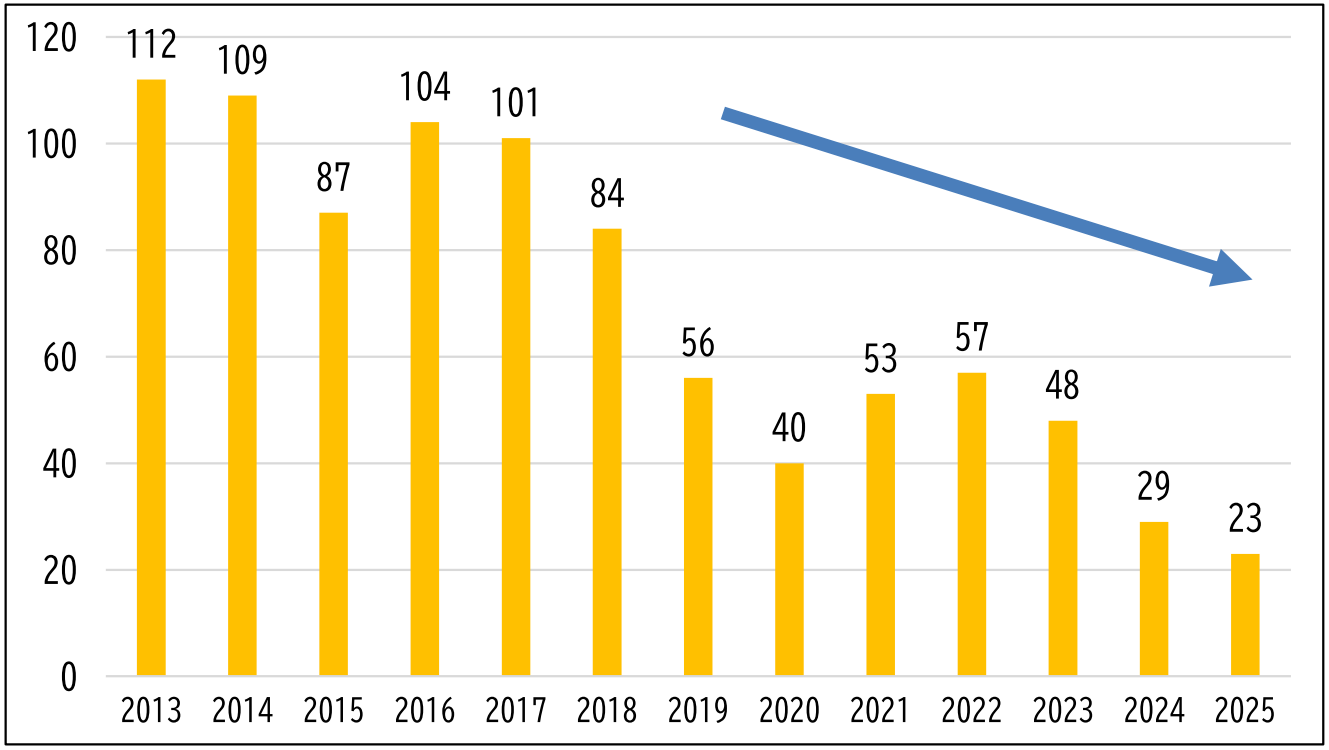
図表20 災害に対する備え：防災メール等への登録
（2018・2022・2025地域環境課実施 市民意識調査）



交通安全対策委員会

外傷サーベイランス委員会による評価
【データ分析】図表21 交通事故発生件数の推移について、人口が減少すれば件数も減るので、人口10万人あたりの、都留市における交通事故の発生率で推移をみると良いのではないか。
【活動について】 わき見運転の啓発チラシについて良いものができていると思う。市内の事業者に配布するということで、今後もぜひ広げていってもらいたい。

図表21　交通事故件数の推移（2013~2025）



「わき見運転」防止の啓発チラシ



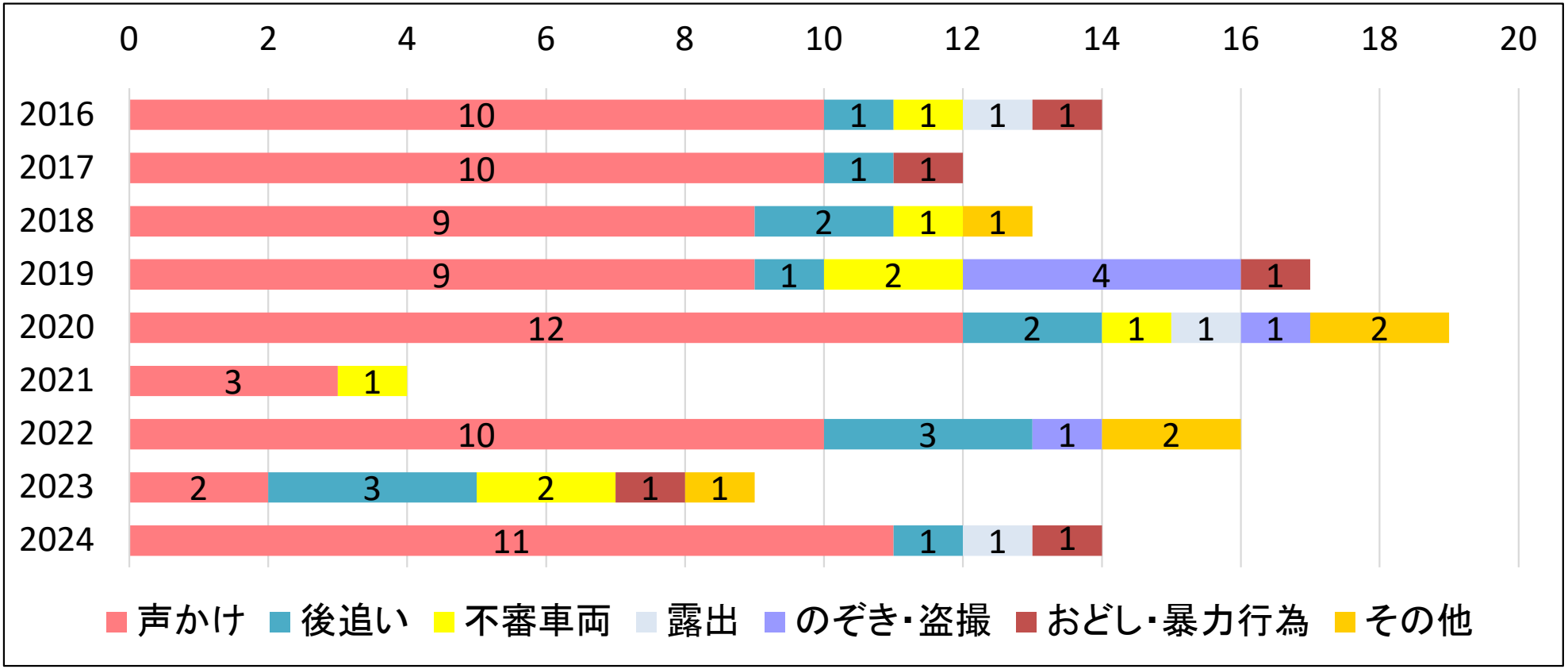
防犯対策委員会①

外傷サーベイランス委員会による評価

【データ分析】図表22

不審者情報は教育委員会から寄せられる情報の件数のみでカウントしており、横ばいの状況が続いているが、同一人物が何度も報告されていることもあるので、可能な限り特定してカウントの方法を変えてみたらどうか。

図表22　不審者情報通報内容（2016~2024 教育委員会統計）



防犯対策委員会②

外傷サーベイランス委員会による評価
【活動について】図表23-1 都留文科大学で実施するコミュニティカフェについて、他の対策委員会の活動も一緒に開催したらどうか。 (例えば心の対策委員会は自殺予防についての啓発をしたりなど)
【データ収集】図表23-2 詐欺に関するデータについて、市民課で実施している「電話詐欺防止機器補助金申請件数」を提示しているが、件数が高止まりしている可能性があるため、これに代わるデータを収集できないか。 (例えば、固定電話を外した方の人数や防止機器を実際設置している人の人数など)

図表23-1　コミュニティカフェ実施回数
(対策委員会　2021～2024)

年度	2022	2023	2024	2025	計
開催日数	3	5	3	1	12

図表23-2　電話詐欺防止機器補助金申請件数
（市民課　2020～2024）

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	199	49	39	37	37

高齢者の安全対策委員会

外傷サーベイランス委員会による評価

【データ収集】図表24・25

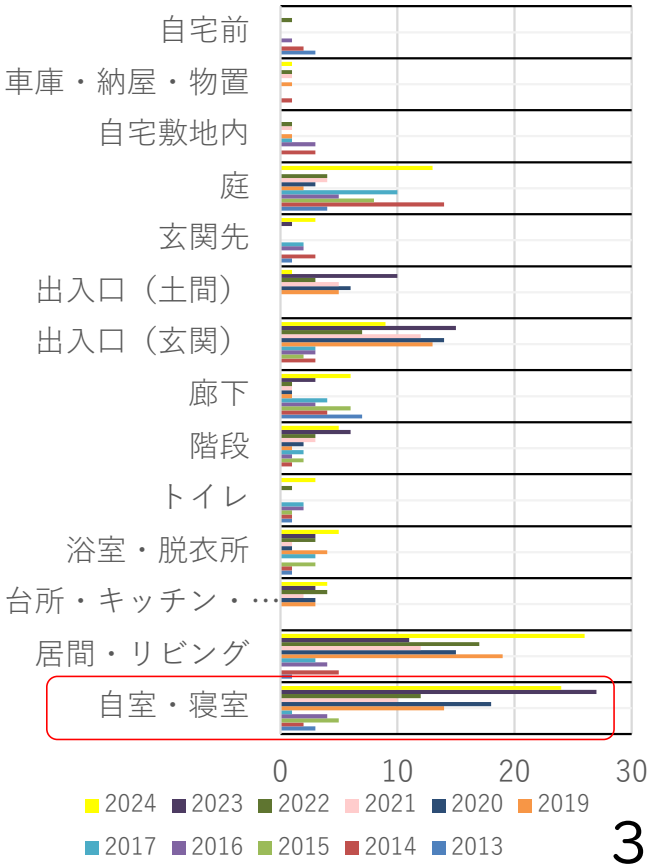
・高齢者の受傷原因は「転倒・転落」が多数を占めているが、受傷の程度（打撲なのか骨折なのか）まで聞きとると良いのではないか。

・受傷場所については、「自室・寝室」が多いが、寝室のどこで受傷したかなど詳細に聞き取り、具体的に危険な場所を伝えることが怪我を防ぐには大切になるのではないか。

図表24 受傷原因別救急搬送数（2013~2025 都留消防署）

	2013	2014	2015	2016	2017	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
転倒	62	79	75	67	80	98	105	94	101	138	111	110
転落	14	17	13	14	7	16	20	25	17	20	21	13
物への接触	7	6	5	1	5	8	6	1	9	5	5	7
落下物との接触	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1
ヒトとの接触・衝突	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
熱及び高温物質との接触	2	1	1	2	0	0	0	1	1	1	1	0
無理な頑張り	0	0	0	0	0	2	2	2	0	3	2	1
食物の誤嚥・誤飲	3	0	3	3	6	4	4	1	9	0	4	2
その他の誤嚥・誤飲	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0
挟まれ・巻き込まれ	0	3	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2
虫・動物等による刺され・咬まれ	4	1	1	3	4	2	4	1	1	4	3	2
異物混入	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
溺れ・溺水	0	1	2	0	0	1	3	1	0	0	2	0
不詳	12	4	4	32	9	3	0	2	2	7	1	5
その他	7	13	5	14	19	1	2	7	5	4	3	2

図表25 場所別受傷件数（都留消防署）

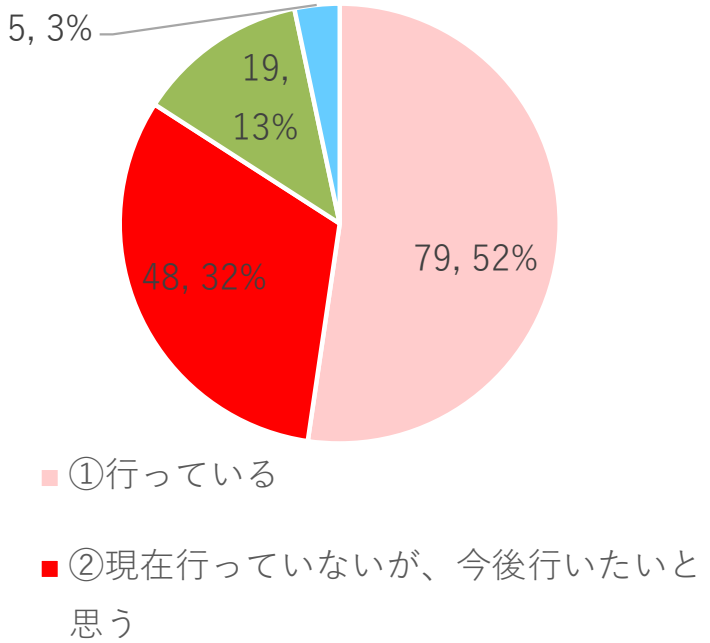


親と子の安全対策委員会

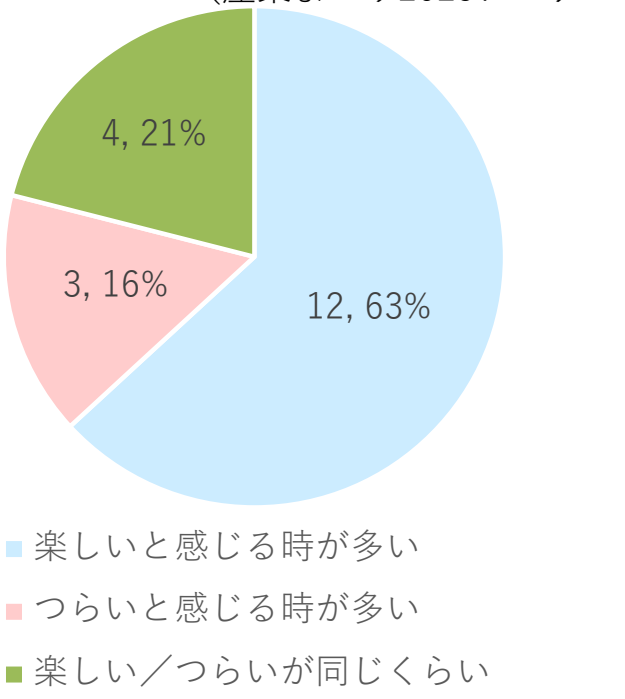
外傷サーベイランス委員会による評価
【データ収集】 ・子どもが自宅で安全に過ごすための対策として、電源ケーブルなどは束ねているかどうかのアンケートをとっているが、どう束ねているかまで聞き取ってはどうか。 ・「子育て」についてどう感じているか問うアンケートについて「つらいと感じる時が多い」と回答している方がいる。この方たちにどういったところがつらいのか、大変なのかまで聞き取り、活動のヒントにしてはどうか。また、何人目の子どもかどうかまで聞き取ってはどうか。

図表26　自宅で安全に過ごすための対策を行っていますか？（市民意識調査2025）

踏んで転ばないように電源ケーブルなどは束ねている。



図表27　「子育て」について、どう感じていますか？（産業まつり2025アンケート）



心の健康対策委員会①

外傷サーベイランス委員会による評価

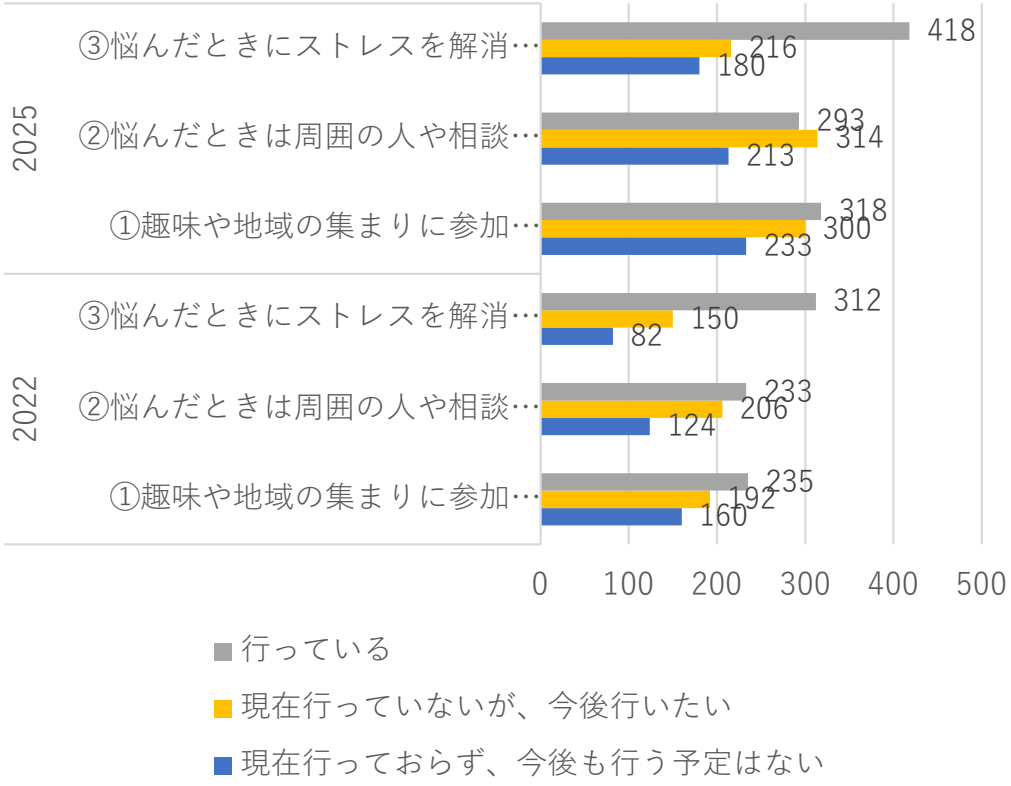
【データ収集】図表28

「趣味や地域の集まりに参加し、人との繋がりをもっているか」という項目について、「現在行っておらず、今後も行う予定はない」という方が一定数いるが、その理由まで聞き取ってはどうか。

【活動について】図表29

・自殺は50代～60代に多く、自傷行為は20代が多い。都留文科大学で「学生なんでも相談窓口」を設置し始めたので、そことつながることで活動が広がるのではないか。

図表28 心の健康対策を行っていますか？
（地域環境課実施 市民意識調査2025）



図表29 年度別･年代別自殺者数【男性のみ】
（2013～2024 自殺の基礎資料／厚生労働省）

年度	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
2013	0	1	1	2	1	1	0	0	6
2014	0	0	0	3	0	1	1	1	6
2015	0	1	1	0	0	3	1	0	6
2016	0	1	0	1	0	1	0	0	3
2017	0	1	0	0	1	1	0	0	3
2018	0	1	0	0	1	0	0	0	2
2019									0
2020	0	0	1	0	0	1	1	0	3
2021	1	0	0	0	0	0	1	1	3
2022	0	1	1	1	1	0	0	0	4
2023	1	0	0	0	1	0	0	0	2
2024	0	0	0	1	2	0	2	0	5
合計	2	6	4	8	7	8	6	2	43

心の健康対策委員会②

外傷サーベイランス委員会による評価

【活動について】図表30

・自殺は50代～60代に多く、自傷行為は20代が多い。都留文科大学で「学生なんでも相談窓口」を設置し始めたので、そこと繋がることで活動が広がるのではないか。

図表30 自損行為による救急搬送件数･年齢別（2013～2025 都留消防署）

年齢区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計
0～4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	5
15～19歳	0	0	1	0	1	2	1	0	1	0	1	2	3	12
20～24歳	1	2	2	1	2	0	3	3	1	4	2	4	7	32
25～29歳	0	0	1	0	1	2	1	2	0	0	1	2	0	10
30～34歳	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	6
35～39歳	0	0	1	1	1	2	1	1	0	1	0	0	0	8
40～44歳	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5
45～49歳	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	5
50～54歳	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	2	2	10
55～59歳	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	3	0	8
60～64歳	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	5
65～69歳	0	0	1	2	0	1	2	1	1	1	0	0	0	9
70～74歳	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	7
75～79歳	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	4
80～84歳	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
85～89歳	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
90～94歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～99歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100歳～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今後の課題・改善点・方向性

外傷データの分析における課題や改善点

過年度は、外傷サーベイランス委員会を年1回開催しているが、分析するデータ量が膨大となり分析時間が不足している現状であるため、複数に分けて「より深く」分析する機会を作ることにより、これまで以上に的確な助言・指導を委員からいただけると考える。

しかし、複数回の開催を行う場合、データの事前分析・資料作成を行う統括事務局の負担が増えることが想定されるため、実施についての検討が必要である。

【今年度におけるサーベイランスの方向性】

・現地審査における審査員のアドバイスを受け、プログラム改善にむけたデータの収集・分析を行う。
・取組を「評価する」観点からも、量的データだけでなく、聞き取り調査やアンケート調査など、質的なデータについても分析していく。

ご清聴ありがとうございました。